

110番の日

外国人が通報体験

茅野署 初の研修会

「110番の日」の10日、
茅野署は管内在住の外国人を
対象にした110番通報研修
会を同署で開いた。約30人が
参加し、110番通報が必要
になるような方が一の場合に
備えた。

日本で暮らしていくための
ルールを学んでもらい、警察
機関への理解を深めてもらお
うと、外国籍の住民の支援活
動を行っている特定非営利活

動法人（NPO法人）ねこじ
やらし茅野の協力で初めて実
施した。
研修会では、宮崎茂男地域
課長が講師を務め、110番
通報の仕組みを紹介。「外国

語で通報した場合でも、言葉
が理解できる警察官に転送さ
れるので、情報を伝えること
ができる」などと語った。

中国出身の女性が実際に1
10番通報を体験し、中国語
で事件の内容を伝えた。交番
の活用方法、交通事故に遭わ



110番通報を体験する参加者

ないための注意点なども学
び、パトカーの装備や車内を
見学した。

参加したフィリピン出身の
小平エリザベスさん＝富士見
町富士見＝は、「とても参考

になった。いざというときに
も落ち着いて通報できると思
う」と話していた。

（野村知秀）

110番通報の仕方 外国籍住民研修

茅野署

「110番の日」の10日、茅野署は外国籍住民向けに、110番通報の仕方を教える研修会を開いた。写真。家族連れなど30人余が参加。通訳を交えながら約1時間、通報から捜査に至る過程や、通報時に伝えるべき項目などを学んだ。



同署はまず、事件や事故が起きた場所や時間といった通報の際に伝えるポイントを、英語、タガログ語、中国語、ポルトガル語の四つの言語で説明した資料を参加者に配布。宮崎茂男・地域課長が「GPS(衛星利用測位システム)機能付きの携帯電話で通報すれば、警察側で通報者の居場所は分かる」「日本語が苦手な人には、通訳につなげることもできる」などと説明した。携帯電話を使って、通報の練習もした。

来日5年目というフィリピン出身の主婦、金子シャルミンヌさん(27)は「富士見町落合」は「緊急の時に日本語が話せるか不安だったけれど、通訳がいることが分かって安心した」と話した。

地域の外国人支援活動に取り組んでいる茅野市のNPO法人「ねこじゃらし茅野」(岡元春美代表)が通訳や研修会のPRに協力した。